**平成25年岩手県産業連関表**

岩手県政策地域部

**産業連関表の仕組みと利用**

産業連関表とは

* 県内において、一年間に各産業が原材料や労働力を投入して、財貨・サービスをどれだけ生産したか、また、生産された財・サービスが、産業の中間需要や、消費、投資等の最終需要部門にどれだけ使用されたかを、全産業について把握して、行列形式（マトリックス）で一覧表にしたもの。
* 産業連関表を縦方向にみると、各産業が生産のための原材料として、どの産業からどれだけ生産物を購入（中間投入）し、生産のための粗付加価値がどれだけ必要かを読み取ることができる。
* 一方、横方向にみると、各産業の生産物をどの産業にどれだけ販売（中間需要）し、消費や投資など（最終需要）にどれだけ向けられたかを読み取ることができる。

図１　産業連関表の概念図

　　　　

○中間投入…各産業の生産活動に必要な原材料、燃料、サービス等の購入費用をいう。

○粗付加価値…各産業の生産活動によって新たに付け加えられた価値をいう。

○中間需要…各産業の生産物のうち、各産業にその生産活動のための原材料等として産出（販売）した分をいう。

○最終需要…消費、投資及び移輸出からなる。

産業連関表の利用

* 本県の経済取引の実態を明らかにした統計表であるため、県経済の産業構造や産業間の相互依存関係を分析することができる。
* 表から導き出される各種係数を利用し、公共投資等の行政施策や観光消費等の経済波及効果を分析することができる。

逆行列係数

・逆行列係数は、ある部門で最終需要が１単位生じた場合に、その需要をまかなうため各部門の生産額が何単位誘発されるかを示す係数であり、波及効果分析で用いる。

・波及効果分析では、各部門で繰り返し誘発される生産額を、投入係数表を利用して計算することで、波及効果を求めることができる。しかし、部門数が多くなると手計算では事実上不可能になるため、あらかじめすべての産業部門について逆行列係数を一覧にまとめたのが「逆行列係数表」である。

・すべての波及効果が県内に生ずる封鎖経済を想定した閉鎖型［（Ｉ－Ａ）－１型］と、波及効果が県外に流出する開放経済を想定した開放型［｛Ｉ－（Ｉ－Ｍ）Ａ｝－１型］がある。

　　　　※平成25年岩手県産業連関表は、平成23年岩手県産業連関表（基本表）をベンチマークとして、国の延長産業連関表などを用い延長推計したものである。